

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 福寿会
施設名	登美ヶ丘マミーズ保育園
報告者	西田 明恵 (園長)
住所・連絡先	〒631-0005 奈良市中登美ヶ丘 5 丁目 34-1
	☎ 0742-53-5678
	E-mail mamizuhoikuen@ace.ocn.ne.jp

○タイトル (保育計画)

「強い身体と豊かな感性」

○主な助成備品

カラーマット・鉄棒・平均台・跳び箱・フラフープ他

1. 保育計画策定の目的

登美ヶ丘マミーズ保育園は、創立2年目の新設園です。昨年から引き続き、新型コロナウイルス感染症に悩まされる日々ですが、そのような状況の中でも子どもたちは、一生懸命に「今」「その時」を生きています。子どもたちの「今」を大切に「できることをやる」を心に職員が一丸となって保育に取り組んでいます。本園の教育方針の一つに「身体も心も丈夫でたくましい子の育成」を掲げています。広い園庭、農園などの環境に心を動かし体を使って積極的に関わることで、自ら体を動かして遊ぶことの楽しさを味わうことができるようにしています。また、一方では、体育の専門講師に来ていただき、遊びを通して楽しい体力づくりの指導を得ています。跳び箱や鉄棒・平均台などの遊びを発達に合わせて継続的に指導していただく中で、子どもたちは、体力の向上はもとより、できた喜びや、意欲、集中力、諦めない心など非認知能力も育んでいます。また、保育士が講師の姿から学び、日常の遊びや生活の中で、体育遊具も環境の一つとして取り入れ、子どもたちの運動能力や心の力を伸ばす計画と実践を積み重ねています。

2. 具体的な実施内容

〈カラーマット〉

子どもたちは、鮮やかな色が好きです。乳児クラスの子どもたちは、保育室やキッズスペース、リズム室などにマットを敷くと、その色に惹かれて集まってきます。自由に遊ぶ中で、寝返りができるようになったり、ハイハイをして体を動かせるようになったり、立って自由に動いたりなどしています。マットを重ねたり、跳び箱の上にマットを敷いて山にしたりなど、子どもの動きや発達を考慮しながら乳児なりに挑戦する気持ちを育むように環境構成の工夫を行っています。経験を重ねるうちに、子どもたちは自ら

積極的に挑む姿もみられるようになってきました。また、幼児クラスでは、マットの上でゴロゴロ体を動かしたり、大根抜きの遊びをしたり、マットの上に乗って先生に運んでもらったりしながら慣れ親しむことから始め、次第に前転や後転などができるように援助してきました。活動中の、先生の承認や称賛は、子どもたちのやる気を引き出し、体を動かす楽しさに繋がっていききました。



〈平均台〉

子どもたちは遊びの中で床に貼ったテープの上をバランスをとって歩いてみたり、砂場の周りを中心に落ちないように慎重に歩いたりする姿がみられます。そのような中、少し高さのある平均台を出すと、早速渡ってみようとする姿がみられました。平均台は、平衡感覚や集中力・注意力などが培われます。遊びの中で活用することで、自分の発達に応じた動きを経験しながら諸感覚が育っていくことを願っています。幼児ではバランス感覚が難しく、正面を向くことができななかった子どもも、繰り返し行うことで腕を使ってバランスを取ることを身に付け、できるようになると何回も繰り返したり、早く渡ってみたり、横向きに歩いたり自分の力に向かって粘り強く取り組む姿がみられました。

〈跳び箱・踏切り台〉

体育教室や学級全体の活動で、活用しています。跳び箱に対する恐怖心をもつことのないよう、お尻をついて登ったり、歩いて上り下りしたりなど、遊びを通して跳び箱に十分に触れることから始めていく中で、子どもたちから「どうやって跳ぶの?」「跳びたい」という声が聞かれるようになります。体育の専門コーチの指導の下、跳び箱の跳び方や踏切り台の使い方を教えて頂き、4・5歳児の子どもたちは、自分の力に挑み、一生懸命に取り組みます。その表情は、真剣そのものです。一段一段、段数を高くして挑戦していく姿は頼もしいです。友達に「凄い!」と褒められたり、「頑張って!」「できるよ!」と励まされたりしながら、今では全員が跳べるようになりました。できると、「誰かにみてもらいたい」「褒めてもらいたい」という思いが願いとなり、その成果を保護者参観時に見て頂いたり、発表会の1シーンで披露したりしました。たくさんの拍手は自信となり、次の目標に向かっての意欲に繋がっています。



〈鉄棒〉

園庭に固定の鉄棒があり、ぶら下がったり、豚の丸焼きや、足掛け廻りをしたりして楽しんでいます。「先生、みてみて」「手伝って～」と保育士に称賛や援助を求める声が聞こえてきます。移動式鉄棒は天候に左右されず、活動に応じて活用できます。また、調節も可能なので、年齢や発達に合わせて高さを調節することもできます。リズム室でいろいろな体育遊具と組み合わせてサーキット遊びを楽しむ姿もみられます。嬉しそうな笑顔で鉄棒にぶら下がっている姿もみられます。「ぶら下がるのが楽しい！」そんな思いが伝わってきます。諦めずに挑戦、宙廻りが何回もできるようになった4歳児もいます。鉄棒がないと挑戦することはできません。鉄棒という環境があったから、そして、認めたり応援したりする仲間がいたからこそ、頑張る力が湧き、主体的に取り組むことで平衡感覚や体幹の力、バランス力などが身に付いていくことを感じました。



でも遊具にして遊ぶので見ていて楽しいです。また、フラフープを自由に使って遊べるようにしておくと転がしたり、体に通したり、くぐったり、輪を並べて跳んだり、カラーコーンに輪投げの様にフープを投げ入れたりして友達と一緒に楽しむ姿がみられました。そして、競い合ったり、集中して頑張ったり、数を数えたり、時間を計ったりなど、体力の向上とともに、認知能力や非認知能力も育っていることが分かりました。



3. その成果と評価

子どもたちの運動能力の低下が叫ばれる昨今、幼児期運動指針では遊びを通して幼児期に身に付けたい36の基本動作が示されています。園では、主体的な遊びの時間を大切に、広い園庭を有効活用しながら好きな事を思いっきり楽しめる場と時間を大切にしています。友達と一緒に総合遊具で遊んだり、鬼ごっこをしたり、縄遊びをしたりなど身体を思いっきり動かし、汗をかいて遊ぶ姿は、園ならではの充実した時間ではないかと思えます。そのような中にマットや跳び箱、平均台などの器械・器具を活用しての運動遊びを取り入れることにより、日常の遊びに変化のある体の動きを得ることができました。保育士や専門講師の承認や称賛、友達の応援や励ましは、子どもたちのやる気を生み出し、できるようになるまで一生懸命に挑む姿がみられました。自分で目標をもち、それに向かって集中し、根気強く、粘り強く、最後まで諦めず取り組む中で非認知能力も育ち、体力の向上だけでなく、「健康な心と体」「自立心」「協同性」など、幼児期に育ってほしい10の姿の育ちにも繋がっていることが分かりました。これからも子どもたちが主体的に取り組む運動遊びの環境について、子どもの姿を通して探っていきたいと思います。

4. 今後の課題と展望

鉄棒で宙廻りができるようになったり、高さのある跳び箱が跳べるようになったり、フラフープが腰で何回も回せるようになったりなど、経験の積み重ねで、今までできなかったことができるようになることは、子どもたちにとって大きな自信となります。発表会の劇遊びの中で、得意な跳び箱や鉄棒、フラフープを登場人物になって観客の前で披露するといったクラスがありました。舞台上で自分の力を出して頑張ることは、成功、失敗に関わらず、その過程も含めて大きな喜びと自信になると思われました。このクラスの保育士は運動遊びを日頃の保育の中で継続的に行っています。その積み重ねが、大きな力となることが劇の発表の姿から感じる事ができました。運動能力向上のため、私たち保育士は、幼児の体の発達や運動の基本動作36、そして運動用具の使い方の基本などを学び合い、専門家のアドバイスもいただきながら、「子どもが体を動かすことが楽しい!好き!」と思えるような、環境構成や援助の在り方についてさらに学びを深めていきたいと考えます。ありがとうございました。

以上